会議録

会議の名称	平成29年度　第2回西東京市自立支援協議会　計画策定部会
開催日時	平成29年7月3日（月）
開催場所	田無庁舎503会議室
出席者	綿部会長、橋爪委員、天宮委員、本間委員、藤田委員、櫻井委員、小矢野委員 欠席：平副部会長、小澤委員、根本委員、山口委員
議題	（１）計画策定に伴う調査票見本の内容の確認について （２）調査設計について
会議資料の名称	調査票見本（身体障害、知的障害、精神障害、難病、児童、施設入所、相談支援機関利用者等、通級指導学級） 計画策定部会スケジュール
記録方法	□全文記録　☑発言者の発言内容ごとの要点記録　□会議内容の要点記録

会議内容

傍聴なし

１　部会長挨拶

〇事務局から資料確認・連絡事項

２　議題

〇綿部会長より議事録案について確認、承認、確定

（１）計画策定に伴う調査票見本の内容の確認について
（２）調査設計について

〇事務局より資料（調査票見本について）　説明

・　第1回会議で出された意見の振り返り
・　調査対象者数の見直しについて

〇委員

本日は調査内容について、最終的に精査して確定する。次回に他市との比較、実績を議題とする。

調査内容について、ご意見等があればお願いしたい。

〇委員

相談機関利用者の調査票だが、えぽっくやハーモニー、ブルームを利用している人が対象か。

〇事務局

今回、相談支援機関利用者ということで調査対象と考えているひとつにえぽっくがある。えぽっくでは予約制で発達障害相談を実施しており、その利用者を対象にしたい。また、身体障害の方を対象としている保谷障害者福祉センター、知的障害の方を対象とした地域活動支援センター・ブルーム、精神障害の方を対象としたハーモニーがあり、それぞれ相談等も行っているので、そこを利用している方にもご協力いただけるのではないかと考えている。民間の指定特定相談支援事業所を利用している方については、調

査等のタイミングもあるため、基本的には行政が関わっている機関を中心に考えている。
○委員
　郵送調査と窓口配付で、回答者が重複することはないのか。
○事務局
　調査対象者は手帳所持者の2割弱を抽出しており、8割は調査対象外になる。サービス利用、未利用に限らず手帳所持者となると、現在サービスに繋がっていないが手帳所持者が相談にいらした場合、重複の可能性は否定できない。相談支援機関利用者として、集計したい。
○委員
　分析時に、事業所に相談に来た人たちの意見とすれば問題はない。窓口配付時にアンケートに回答しているか確認してから配布するなど、方法を検討していただきたい。
○事務局
　手帳所持者だが、郵送調査については、重複障害の方には、それぞれの障害種の調査票が届かないように抽出する。
○委員
　障害児と通級指導学級の調査票も重複する可能性があるので、分析時に通級指導学級の子どもたちのニーズという分類で考察すればいいだろう。
　その他にはいかがだろうか。
○委員
　難病の調査票だが、重度と軽度が混在した質問になっている。
　保護者はアンケートには飽き飽きしている。それは回答しても何もフィードバックがないからだ。回答することで具体的に何が変わるのかビジョンが見えない。回答したことが何に直結するのかということをぜひ書いていただきたい。この難病調査ではざっくりしたことしか拾えないと思う。
○委員
　前回の調査票回収率は何パーセントか。
○事務局
　全体で48.4%だ。
○委員
　保護者はお任せ状態で、誰かが何かをしてくれると思っている。子どもに関しては、障害がわかってから、トランジションと言われると、放り投げられた気分になる。そうではなく、トランジションの教育を子どもが小さい頃から保護者にすることが必要だ。せっかくアンケートをやるのだから、今年はこれを絶対にやるというものがないと結局、精度も回収率も上がらないでは意味がない。具体的にセミナーの実施や、チラシを同封するなどしてはどうか。アンケートに関しては、どんな人生を選びたいですか、私は一生子どもを見ます、私は見られないので施設に預けたいですなど、究極にはそれだけでもいいと思う。
○委員
　今のお話だが、属性について追加は可能か。例えば知的障害でも重度、軽度の違いでの意見をクロス集計できれば差が見える。難病ならば、働ける方、寝たきりの方など、様々な状態像で意見が違うだろう。属性の質問を追加できるか。
○事務局

属性として手帳の度数や等級を聞いている。難病については属性が薄いという感じだろうか。
○委員
難病指定は増えているが、難病患者の属性として必須として書くものがあるか。
○委員
私が参加している法人では、難病の分類を細かくやっている。海外では希少疾患に対して登録制度がある。難病の属性分類は大変な作業になるが、お金をかけていいのではないか。
○委員
アンケートでは、状態を分けられるといいのではないか。例えば、気管切開、胃ろうや、歩けるか、歩けないかなどの状態だ。
○委員
重症度分類がいいと思う。
○委員
重症度分類で項目があるといいのかもしれない。
○委員
難病名をみて自分のことだとなれば、回答者が増えると思う。
○委員
身体障害は級、知的障害は度数でみることができる。児童は障害種がそれぞれなのではバラバラになる。難病の方では身体障害者手帳を持っている方もいらっしゃれば、状態によって手帳を持っていたり、持たなかったりと様々だ。
○委員
多種多様なので、児童や難病のことを厚労省や都が把握できない。東京都も混乱していて、どこから何をしていいかわからない。ひとつひとつ拾っていくことは大変だが、やるしかないと思う。
○事務局
難病調査の属性については、設問項目として増やしたい。障害福祉計画、障害者基本計画中間の見直しも含め、難病区分は属性、またその状態像を入れたい。集計時に、医療的ケアが必要な方のニーズがわかるようなかたちにする。
○委員
このサービスや制度があなたの受けているサービスにリンクしているから答えて下さいというようなものにしてほしい。
○委員
難病に関しては、状態像を含めた属性を1設問くらい入れるということでよいか。状態像は多種多様なので、医療ケアの有無を追加するだけでも大きいと思う。医療ケアは国が力を入れるところでもあるので、属性として入るといいだろう。
○委員
知的障害者の調査だが、差別や人権侵害に関する質問は本人が回答する。東京都知的障害者育成会の本人部会で差別解消法などを勉強しているが、自分たちが差別を受けている、合理的配慮がないことを知らなければ、訴えることができない。西東京はそういった本人活動がまだ弱い。市内ではあめんぼ青年教室で知的障害の方向けの様々な学習活動や体験活動を行っているが、定員いっぱいで受け入れる体制がない。本人活動のニーズはあると思うので、そういったことを拾えるアンケートにしたほうがいい。

知的障害者が高齢になった時の問題点として、介護保険と障害福祉サービスの切り替えがある。西東京市では1本化になっていると思うが、市区町村でやり方が違う。介護保険へスムーズに移行しているのか知りたい。
知的障害者で医療保険加入者が65歳以上になると、後期高齢医療に移行することを事業所も知らない。親はその頃にはいないので、周囲の行政の方がきちんと対応していただかないと、1割と3割では大きな違いだ。ホームページでは、後期高齢と検索しても細かくは出てこない。現状あるサービス制度やサービスに気が付けるような質問形式にして、知らない、使えていないということを改善できないか。
文部科学省が生涯教育に力を入れる予算の方針があるので、趣味活動のニーズを聞き取り、障害者が社会人になってからできるだけ能力を落とさないように、生涯教育として趣味などができるような環境づくりをしていただきたい。
○委員
障害種別に限らず、本人、家族の高齢化は大テーマだ。介護保険優先で切り替えてもサービスがない。高齢のサービスもあてはまらない現状があるので、将来的な生活設計などを聞ける設問があるといいだろう。
年金の受け取り状況はわからないのか。
○事務局
障害福祉課としては情報を持っていないのでわからない。
○委員
あとは、高齢化や将来、後期高齢者医療保険の知識について、どうかというところも課題だ。
○委員
例えば、高齢化で高齢者施設に入った途端に、今まで自由に外出していたが自由に出られなくなり、ストレスになる。市区町村によるかもしれないが、移動支援が使えないと言われる。
○委員
調査では障害福祉サービスの利用について質問を設けている。ここに高齢者サービスを利用しているかどうか入れてもいい。例えば70歳の知的障害者の方が高齢者のサービスに丸を付けるかもしれない。そうすると上手く繋がっていることがわかる。逆に知らない、利用したことがないならば、65歳以上の方が高齢者サービスを使えていないことが明らかになる。高齢介護のデイサービスは障害者を受け入れてくれないというイメージがあるが、データとして挙がることもひとつの見方かもしれない。
○委員
65歳以上の方にアンケートが届けばいい。実際には65歳以上の人で作業所に通いながら、介護保険に移行してデイサービスを使っている方もいらっしゃる。
○委員
デイサービスに行けているかどうか。就労継続支援Ｂ型には定年がなく、70歳近い方からは「いつまで働けばいいのか」と言われる。本当は高齢介護のデイサービスが利用できればいいが、行く先がない事が多い。もしそういった実態がたくさんあるならば、アンケートで浮き出るような仕掛けをするといいと感じた。
○事務局
調査対象は無作為抽出だが、生年月日や障害種別、等級ごとに元データを並べ替えて、その上で年齢や障害の軽度重度を考慮して抽出したい。

介護保険サービスは65歳以上の人に聞くことが一般だが、脳血管障害だと40歳以上も対象に入る。あまり細かくすると煩雑な質問になってしまうので、割り切って65歳以上の方を質問対象としたい。アンケートの中で全部拾おうとすると、20ページ内では済まなくなる。一定程度絞って介護保険サービスについて聞き取れればと思う。トータルとして20ページ超えると圧迫感があるので調整したい。

生涯学習や余暇活動だが、各調査票でスポーツやレクリエーションなどについて尋ねている。将来的な暮らしについても、設問を入れている。ご指摘のあったように細かくとなると選択肢が増えるので、折り合いをつけてはいる。具体的なご提案があれば反映したい。レクリエーション活動の有無、今後の活動希望、将来意向は設問として入れている。

○委員

法律や制度的な事、レクリエーションや生涯教育などをやっていることは分かるが、西東京市で弱いと思われる本人活動や本人たちが作業所などでも勉強する機会を設けるなど、ニーズがわかればいい。

○委員

今は最初のデータの問題なので、それは考察で検討した方がいいだろう。策定委員会では、アンケート調査が終了し分析に入っていく段階で、あった方がいいもの・サービスなど、様々な意見を入れていけばいい。

その他にはどうか。

○委員

知的障害者調査の問20「雇用就労の状況」について。就労支援センターとして考えると、「仕事をしている人に聞きます」は、支援機関の利用有無によって、捉え方が変わってくるので聞いてほしい。問21、22、23はそれ関係なので知りたい。

知的障害者調査の問29だが、どの様な相談をしたいかが分かるといい。聞き方として、相談先の有無があり、ある場合は問29にある相談先を聞き、ない場合はその理由が分かればいい。

知的障害者調査の問28の選択肢に「2　ヘルプマーク」とあるが、「ヘルプカード事業」ではないか。「ヘルプマーク」は確か東京都の名称（事業）で、市は「ヘルプカード」ですみ分けているのではないか。

問34の選択肢4「使いたいサービスがいつも予約で一杯だから」は、実際には定員がいっぱいだから、枠がいっぱいだからという話を聞く。グループホームや通所など、全てのサービスにかかってくるといいと思うので、聞き方を変えるとより具体的になるのではないか。

○委員

修正可能かと思う。

ヘルプマーク、ヘルプカードについて、どちらだろうか。

○事務局

ヘルプマークについては、ご指摘の通りなので、修正する。ヘルプマークは都が制定したマークだが、各市町村でヘルプマークの普及啓発も行っている。西東京市ではヘルプマークのデザインが入った消しゴムやクリアファイル等を作り、中学生世代を対象に普及啓発している。

○委員

知的障害者調査の問29だが、最初に相談先の有無を聞いて、質問の流れを変えたほう

がいいという意見だが、いかがだろうか。
○委員
　相談先がない理由を知りたい。
○委員
　事務局で検討していただきたい。
　知的障害者調査の問34の選択肢4だが、聞き方を変えてはどうかという意見についてはどうか。
○事務局
　ご指摘の通りの部分もあるので、表現を変えていきたい。
○委員
　知的障害者調査の問20だが、就労支援の有無を聞いたうえで仕事の状況を聞く流れとするか。
○事務局
　就労支援の有無だが、知的障害者調査の問27に「就労支援センター・一歩」の利用・認知の設問がある。その前段として「仕事に就くにあたって、就労支援で見つけましたか（就労支援を利用したか）」ということだろうか。「一歩」は知っているが、支援を受けていないのかどうかということだろうか。
○委員
　支援側として、この結果から知りたいのは、自分らのサービスの拡充なのか、全く就労支援を知らないでの状態なのかによって、対応が全く変わる。就労支援を利用していての結果によって、見直しが必要なところがわかるかもしれない。アンケートからそれが分かるのなら知りたい。
○事務局
　検討したい。
○委員
　その他に意見があればお願いしたい。
○委員
　実際にアンケートを回答した立場から言うと、アンケートはどういう意味でやっているのかと思う。調査対象は「手帳をお持ちの方々を対象」としているが、手帳の等級の問には「1　手帳は持ってない」という選択肢がある。何のために聞くのか。
　身体障害者調査の問31に聴覚障害者対象の質問がある。しかし、これ以外はほとんど聴覚障害者に関係ないようなイメージだ。それでも全部答えないといけないのか。ここだけでは物足りない。
　問58の西東京市での居住継続意向は何のためか。
○事務局
　手帳所持者対象の調査として「手帳は持ってない」という選択肢は不整合なのではといご質問について。抽出は手帳所持者が対象だが、ごくまれに手帳を所持しているか不確かな方がいるので選択肢に入れている。確かに選択肢として不整合なので、「手帳を持っていない」ということと「わからない」という部分も含めて、この選択肢を最後に移したいと思う。
○委員
　持っていないと思っている人がいるのか。
○委員

身体障害を持っているにもかかわらず、手帳を取りたくないということか。
○事務局
実際には手帳は出ている。
○委員
親が持っているからわからないなどだろうか。
○委員
内部障害の人も疾患を持っていて、本当は手帳が必要なのに持っていない人もいるのではないか。
○事務局
調査対象は、手帳所持者を抽出している。
○委員
疾患があっても手帳を申請できない人もいて、そういう人は大変な暮らしをしている。調査とは関係ないことだが、遺伝子の変異で、男性でも女性でもない遺伝子を持っている人もいる。LGBTではなくそういう人もいると聞いて衝撃を受けた。
○委員
男性が女性に、女性が男性に、ひっくり返ることをトランスジェンダーといい、中性でもない人をＸジェンダーという。
○委員
ある程度の年齢になると、どちらか選べる。私が障害者の親でもそういうことを知らない。私たち自身がもっとそういう広い目で見ないと、社会保障も破たんに向かっているので、大変だ大変だと言っていてもしょうがないと思うので、ここでも具体的な拾い出しが必要で、やはり教育が大事だと思う。
○委員
身体以外の手帳所持や疾患の状況の問では「あてはまるものはない」となっている。
○事務局
ご指摘の通り、アンケート対象者は手帳所持者なので、ここは「わからない」などと変えたい。アンケートを送る際には、前段部分に障害者手帳所持者が対象と明記しておく。手帳を持っているか不明な方もいると思うが持っていないことはないと思うので、全体を整理する。
○委員
身体障害者調査の問31について、他に何かこれ以外に、困っていることで聞いてほしいこと、項目として挙げてほしいものはあるか。
○委員
福祉サービスを受けることを前提としたアンケートだが、聴覚障害者の質問選択肢に○をつけたところで、どのようなサービスを受けられるのか分からない。例えば「2字幕付きのテレビ番組が少ない」に○をつけたら、市として字幕をつけるテレビをサービスしてくれるのか。それよりも情報支援として手話通訳や要約筆記などのサービス満足度や、満足していないならば派遣方法や申し込み方法、利用方法について聞いた方がいい。
○委員
困っていることを聞くだけではなく、具体的なサービスなどを聞いた方がよいという意見だ。
○委員

サービスや制度と利用者のイメージがリンクできていない。アンケートに答えたらどんなサービスが受けられるのかといったこととリンクできないから答えられない。どうしたらいいのだろう。
○委員
選択肢に対応したサービスがあるのか。回答した人がどういうサービスが必要なのかを聞けばいい。カメラの付いたインターフォンがほしいと回答したならば、それが福祉サービスとして受けられるのかわかるとよい。
「4　話しかけられても気がつかないため、無視したと誤解される」ならば、どういう場所で話しかけられて無視したということなのか。例えば災害が起こった時、避難所でそうしたのか、歩いていてこうなったのかといった具体的なことがあればよい。
選択肢に○をつければ私たちもそれを見て、どういうことが必要か分かるようにしてほしい。
○委員
「サービスを知っているか」という訊き方だと、サービスを知らないことは認識できる。さらにご本人が認知していなかったサービスがあることも知ることもできる。そういう訊き方ならば、アンケートに答えることで得るものがある。
○委員
「こういうサービスがあります」と言われても、サービス内容がわからない人もいる。全体のバランスから考えると、視覚障害、聴覚障害の人への質問が少ない。また「～のある人」という言い方には違和感がある。
西東京市での居住継続意向はいい質問だと思う。嫌だったら「思わない」に○をして、自由回答の欄に理由を書くと思う。
○委員
今後、ずっと住みたいと思える市にしてほしいという意図だと思う。
○委員
視覚、聴覚の質問の意図は何かという質問だったが、いかがだろうか。
○委員
問の下に空欄があるので、困りごとに対してどのようなサービスがあるといいかという自由記述があってもよいと思う。
○委員
身体障害者調査のサンプル数は910ぐらいだが、障害種別が分かれてくる。種別を訊いているので、自由記述にしてもまとまってくる。可能であれば、問31の下に自由記述を入れてもいいかもしれない。
居住継続意向の設問の意味について、事務局から何かあるか。
○事務局
「住みつづけたいと思わない」という理由を自由記述に入れてもらえるとよい。
○委員
私ならば絶対書くが、みんなは知られたくないからだいたい書かない。
○事務局
そのための無記名調査だ。2割に満たない抽出ではあるが、意見は施策に活かしたい。また障害者施策だけでなく、上位計画に活かせるような意見があればフィードバックしていくことも可能だろう。居住意向については、市民調査などでも聞いている。
障害のある方たちが、西東京市の福祉に満足しているか、どのような人が不満を持っ

ているのか、自由記述に書いてもらえれば、障害福祉計画、障害者基本計画のいずれにしても反映できると思う。
○委員
　行政調査として、居住継続したいと「思わない」が80％だったらショックだ。とても勇気がいることだが、居住継続意向の選択肢から「わからない」を削除してはどうか。
○委員
　「わからない＝面倒くさい」ということだから考えていない。
○委員
　どちらかに偏っているので、2択でいいと思う。
○委員
　西東京市の障害福祉政策の満足度と質問の傾向が似ているので、全く違う感じに変えてはどうか。
○委員
　意見として、事務局にお任せしましょう。
　通級指導教室の調査についてはいかがか。
○委員
　通級指導教室担当の先生から「保護者が障害を理解していない」という話をよく聞く。軽度の場合、保護者が障害を理解していない。アスペルガーやＡＤＨＤでは検査もしておらず、検査を勧めても親は拒否する。理解できないまま、通常学級から通級に通うことになった子の保護者と障害特性などを丁寧に話していくうちに、やっと障害を理解してもらえるケースが多い。通級指導学級調査の問4で発達障害の診断について聞いているが、理解できていない人にとっては、この漢字の羅列を全く見たことのない可能性がある。障害の知識がない方は、恐らく「わからない」を選択して回答が終わってしまう。そうであれば、通級に通うことになった理由を訊いた方がいい。どうして通級に行ったのかを解明して、その方たちに寄り添えるようなものにした方がよい。おそらく保護者はパニック状態にあると思う。
　さらに言うと、先生のなかには、本来は一般指導、普通教育をやりかったが、たまたま市区町村の都合で特別支援に「回されちゃった」という言い方をする人が多いのも事実だ。そういう人たちから相談を受けて、指導の仕方を一緒に習った。そういう熱心な先生が側にいて、わからない中でアンケートに答えて、「わからない」と答えた後の拾い出し方があればいいと思う。我々もそれに対してのサポートができるのではないだろうか。我々はアンケートを読んでも当たり前のように意味が通じてくるが、相談支援を受けたらいいことすらも分からない人がいる。そこを救えるような設問があればいい。
　学校の教員としては、障害の理解が進んでいるかどうか、聞きたい。問34の選択肢に「3　障害のある人との交流を通じた障害への理解の促進」とあるが、市では障害のある人と交流して、理解、促進できるようなイベントがあるのか。
○事務局
　まず設問だが、通級に通っている理由を聞くよう調整する。
　交流については、障害のある人と普段から接していると理解が進むことは承知している。また市ホームページで、障害者団体、作業所などで開催されるイベントを紹介している。スポーツイベント等への参加呼びかけ、作業所にイベント時の出店など可能な限り作っている。障害者週間には、駅前ビルのフロアを借り、作業所の方たちが展示会をひらき、買い物に来た方と交流できるといったことも行っており、今後もどんどん進め

ていきたいと考えている。
○委員
　毎日のように差別的なことがある。うまく啓蒙活動ができないか。混合教育ではなくても、障害者と一緒にいることは大事だと思う。
○委員
　通級に通うことになった理由は明確にしてもらう。
　交流については、基本的に通級なので、他の子どもと接する機会は多い。特別支援だと一気に交流がなくなることもあるが、交流事業も含め、啓発活動の状況、理解するにはどうしたらいいかなど、考えないといけないだろう。
　他にはあるか。
○委員
　身体障害者調査の問38だが、総合支援法の見直しで新たなサービスが出てきた。特に自立生活支援、就労定着支援などは、既存サービスと重複するところもある。新たなサービスは特化したサービス、専門サービスということを表記した方がいいと思う。
○事務局
　検討する。
○委員
　選挙に行っているかどうか、どういう配慮があれば投票できるといった質問があってもいいのではないか。
○委員
　ヘルプマークの消しゴムなどに、お金を使ってもカッコ悪いと言われると使ってもらえない。配る時に説明はしているか。
○事務局
　我々が直接生徒にはお渡しできないが、学校には趣旨などを説明し、パンフレットも添えている。
○委員
　配布物といっても、先生は忙しいから。5分以上の説明をして下さいと先生に頼んでおけば、一生懸命話すと思う。
○事務局
　今後の普及・啓発の参考にしたい。教育委員会とも相談する。
○委員
　高齢福祉課は出前講座などをやっている。ヘルプマークも小学生や中学生向けに出前講座をやってはどうか。
○事務局
　別の機会で検討したい。
○委員
　計画策定委員会なので、それらの意見を計画に盛り込んでいけるとよい。本日の意見は事務局でアンケートに反映し、最終決定は部会長と事務局に一任としたい。

３　その他
スケジュールの確認について
○事務局から次回以降の会議予定の確認